

令和5年度学校関係者評価シート(中間評価)

令和5年 10月 31日

校番	202 127	学校名	広島叡智学園中学校・高等学校	校長氏名	福嶋一彦	<input checked="" type="checkbox"/> 定	<input checked="" type="checkbox"/> 通	<input type="checkbox"/> 本	<input type="checkbox"/> 分
----	------------	-----	----------------	------	------	---------------------------------------	---------------------------------------	----------------------------	----------------------------

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	A	<p>○目標、指標、計画は、おおむね適切に設定されている。</p> <p>○ただ、目標が2文以上で構成されているケースが散見される。短期経営目標も中期経営目標程度に短い表現で目標を設定できるとよいだろう。</p> <p>○評価指標の欄には、簡潔に「ルーブリックを用いる」「アンケート調査」等と記されている。簡潔な表現は大変良いのだが、どのような評価基準が用意されているのか、どのような質問項目が用意されたのかが、資料だけでは分からない。別紙で簡潔に調査方法等も開示していただけると、目標、指標、計画の設定の適切さを判断しやすくなるのではないかと。</p> <p>○ODPの初年度で様々な課題があると思うが、文科省のコンソーシアムを最大利用してほしい。</p>
計画の進捗状況の評価の適切さ	A	<p>○目標値と現状値を踏まえて、適切に評価が行われている。</p> <p>年度末に向け、更なる伸びしろに期待したい。</p> <p>○現状の進捗状況についてしっかりと説明があり、適切に評価されていると感じる。</p> <p>○ただ、上記のとおり、誰がどのスケールを使って評価しているのか、どのような手続きで導かれた現状値なのか、判然としない部分がある。</p> <p>○一方、とりわけ中間段階では、全てを数値化して評価することが困難な場合もあると理解している。</p>
目標達成に向けた取組の適切さ	A	<p>○ODPの改善と生徒の選択科目の指導に関して、適切な活動が行われている。</p> <p>○ODPのキャリアラムづくりや授業・評価のために、どのような研修を行っているか、どのような実践に結実しているかを、公開していただきたい。</p> <p>○目標や計画には記載されていないが、報告では、国内外の大学への進路指導の内容が増えている。目標や計画との整合を図るためにも、進路指導についても目標化していく必要があるのではないかと。</p>
評価結果の分析の適切さ	A	<p>○実態に即した評価が行われている。</p> <p>○寮生活の実態が再現されている。生徒は寮生活に満足しているが、食生活には引き続き配慮していく必要があるだろう。残食の量や郷土料理にこだわるだけでなく、多様な食生活や個に応じた分量に配慮し、留学生を含めて多様な生徒が安心して暮らせる環境を提供したい。寝食は生活の要である。心にゆとりをもって暮らすことができるように、業者との交渉にご尽力いただきたい。</p> <p>○TOKの学習が、教師・生徒共にどのように受け止められ、実施されているかを継続的に調査していく必要がある。DPの中核的な領域であり、教師や生徒の学習観にどのような変革をもたらしているかを分析いただきたい。</p>
今後の改善方策の適切さ	A	<p>○ODPでは、大学の教養課程で扱う内容も含んでいる。教員は「大学のリベラルアーツを指導している」という意識を持ってほしい。</p> <p>○勤務時間外勤務の実態把握に努めていることが、詳細なデータからよく理解できた。実態を基に、改善策を講じていただきたい。</p> <p>○評価シートには「リーダー」という言葉が散見される。この語は生徒間ではどのような定義で理解されているのだろうか。他者に働きかけることはもちろん、ビジョンを掲げる姿勢、最も困っている人に手を差し伸べる態度を含めて、生徒集団として定義していく必要があるかもしれない。</p>
総合評価	A	<p>○映像プロジェクト(セルフドキュメンタリー)は、貴学の特徴的な試みである。機会があれば、ぜひ成果を拝見したい。</p> <p>○教科横断的な学際単元:IDUの試みは、県内他校にも還元できる取り組みである。毎年どのようなカリキュラムを展開しているか、報告の場を持っていただきたい。</p> <p>○生徒がIBの最大特徴である「自己を知る」ということができている。その成果が出ていることがうまくだんである。</p> <p>○留学生の心と体の課題にどのようにケアしているか、複数のセーフティラインが構築されているか。今後増えていく留学生の受け入れ・支援体制を、専門家を含めて構築していく必要がある。</p> <p>○MYP/DP運営のノウハウを継承していくためには、外国人教員を含め、ある程度長期的なチーム体制の構築と引継ぎの仕組みづくりが欠かせない。人事には様々な個別事情が影響していると思われるが、魅力的な職場環境にしていくための課題の洗い出しも必要ではないかと。</p>